

千葉大附属版 深い学びの姿 2019年度作成

視点に気付く、ひらめく

視点を変えながら物事を見る

活動の基準が変わる 規準同士を比べてバランスを取りながら活動する

「Aはイヤ」でも、やりたいことのために「Aが必要」という状況で裏返し、「Aでも仕方ない」というふうに通感観を養える⑧

「活動のスピード」と「丁寧さ、きれいさ」のバランスをとって、丁度いいやり方を探す

出来事の原因関係、物の性質への視点をもつ

出来事の原因関係を探り、物の性質を生かして、物を使う別の出来事に応用する

体験から物事の仕組みを知り、それをもとに方法を考え、別の場面でもそれを試す④

物の性質に起因する出来事の原因関係に気付く、物に働きかける①

変化する環境に対応する

環境の変化に動じず活動する 予想外のことに対応する

活動の手続きが変わっても、それを見失わずに変化に応じて活動する④

予想外のことに対応する⑧、偶然起きたことを見逃さず、再現して確かめようとする⑥

モノとモノを比べる

素材の性質を観察する

素材に手を加えながら性質を味わう⑤

違いに気付く

目的の対象がいつもと違う様子に気付く⑥

試行錯誤する、工夫する

試行錯誤する

物への果敢的な関わり(働きかけと観察の往還)⑥

目的に合った方法を探る

工夫する 方法を自分で考える 必要な道具を準備する 活動しながらやり方を思い出す

やりかたのイメージがあって、それに沿った方法を探る⑦

「貴たな道具」と使えそうな道具を探っては試し、を繰り返す①

やりかたのイメージに近づくと素材に働きかけ、手を動かしながらやり方を考える⑥

補助的な手段を考える

上手くない/やりたいたいイメージに合うなら、補助的手段を考える⑥

調べる

わからないことを自分で調べる⑦

上手くない理由を考える

上手くない理由を調べる⑦

やり方を探す

今の自分のやり方はやりたいたい、ということに気付く⑥

上手くない理由に気付く⑦

道具の性質に気付く①

道具の性質を生かして①

上手くない理由に気付く⑦

上手くない理由に気付く⑦

上手くない理由に気付く⑦

予測する(仮説を立てる)

次はどうなるか予測する

現象を予測する この方法はどうなる結果を生むかを予測する

待つてしまったという心情

繰り返される現象を見て、次は何が来るかを予測する④

「どうしたらこうなるはず」と過去の経験を生かしながら、経験をともに、Oをしたら△になる、という見通しをつけることができる③

知識や経験を生かす

経験と「今」をつなげる

いくつかの経験をつなげ、一つの文脈にまとめる

経験したとき、似た活動への取り組みをひとつの文脈でまとめて考える⑤

違う場面での経験を切り離さずにつなげて考える⑥

学校の学習と家庭での経験を切り離さずにつなげて考える⑥

前にやったこと、教わったこと、見たことがあることを再現する

過去の自分や自分のしたこと、今の自分に影響している

過去の経験を生かして、同じ状況に、同じ方法を試す⑧

過去の経験を生かして、同じ状況に、同じ方法を試す⑧

似た活動を繰り返して、活動へのイメージが豊かになる

似た活動を繰り返して、活動へのイメージが豊かになる

似た活動を繰り返して、活動へのイメージが豊かになる

熟達する

方法が熟達する

自分の行動(物の扱い、身のこなし)を調整する

自分が作ったもの、やったこと、出来事、質に注目しながら力加減を調整する④

自分の内面に目を向ける

自分の身体感覚に目を向け、それを熟達させる⑥

環境を調整する

物を使うのに適した環境を見つけ、使ってみる⑤

目的・役割への意識を持つ

集団の中での自分の役割と、自分のしていることを比べる

役割を果たそうとする 自分と友達の役割を関連づける

活動の目的(=自分の役割)を明確にする①

自分の役割を明確にする①

集団の中の自分の役割と友達の役割を関連づける②

集団の中の自分の役割と友達の役割を関連づける②

活動の目的(基準)と自分のしていること比べる

活動の基準を理解し、基準にそって判断する

自分のしたこと、活動の目的(基準)との違いに気づく

活動の基準を守ろうとする

自分のやりたいことのイメージと目的の状況とのギャップに気付く③

過去の経験から活動の目的(基準)を考える

不安を乗り越え、自分なりの基準をもつ

人と共有する

人と共感したい

人に共感してほしい 人に信頼をもつ

上手になった喜びを伝える、分かち合う②

自分の人達とわかってくれる、という信頼のある相手に頼む②

活動の目的(基準)を、人と共有する

相手と活動の完成イメージについて対話しながら、協力して物を作る②

人に合わせる

人に合わせながら活動する タイミングを見計らう 集団に参加したい気持ちを持つ 相手のことを考えながら活動する

「みんなは、いつもこうするから、」に合わせて振る舞う

譲歩する

やりたい活動を相手に譲る④

信頼をベースに活動する

安心して自分を表現する 一歩踏み出す 素直に応じる 助言を求める 褒められたからやりたい

上手にできていないことを認め、質問を繰り返す④

相手の人の動きを見て、自分もそれに合わせて動く④

自分の役割を明確にする①

自分の役割を明確にする①

上手くできたことを実感する

自分の力を発揮したい

自分の力をなるべく発揮したい

知っていることを使えば、得意なことを使えば、思い通りにやることができる④

できるだけ支援を受けず、自分でやろうとする④

上手くできた実感を得る

失敗しないように気を付ける

過去の失敗を思い出して、次に失敗しないように気を付ける④

どうすれば上手いのかを考えて、両方教えてもらったやり方を試す①

技術を発揮する

前に覚えた技術を発揮する④

あきらめない、くじけない

目的に向かってくじけずに活動し続ける⑤

上手いかなにかに自信に気付く、もっと頑張りたいと思う⑥

挑戦する

目的のために、気持ちや行動を調整する

目的のために自分の気持ちを抑える

目的に沿って長期的に活動を進める

「あれがね、」という経験を生かして、自分がやりたい活動の基準条件を明らかにする②

自分がやりたい活動の基準条件を明らかにする②

自分がやりたい活動の基準条件を明らかにする②

この図は、千葉大学教育学部附属特別支援学校において、令和元年度から令和3年度までの研究「深い学びを支える知的障害特別支援学校の授業づくり～各教科等合わせた指導を中心に～」の研究の過程で、「自分たちの学校の子どもの深い学びの姿を捉えよう」という意図のもと作成されたものです。

各学部の授業におけるエピソード記録を束ね、それを「深い学びの姿」として描き出しました。詳しい作成の過程については令和元年度の本校紀要をご参照ください。

・・・大項目(深い学びの姿)

・・・中項目

・・・小項目

小学部のエピソードから作成されたカード

中学部のエピソードから作成されたカード

高等部のエピソードから作成されたカード

千葉大附属版 深い学びの姿 シンプルver. 2019年度作成

新しい視点に気付く、ひらめく

視点を変えながら物事を見る

出来事の因果関係、物の性質への視点をもつ

視点を変えながら物事を見る

モノとモノを比べる

性質を観察する

違いに気付く

試行錯誤する、工夫する

試行錯誤する

目的に合った方法を探る

予測する(仮説を立てる)

次はどうか予測する

知識や経験を生かす

経験と「今」をつなげる

熟達する

方法が熟達する

目的・役割への意識をもつ

集団の中での自分の役割と、自分が今していることを比べる

活動の目的と自分のしていることを比べる

人と共有する

人と共感し合いたい

活動の目的を人と共有する

信頼をベースに活動する

人に合わせる

挑戦する

目的のために、気持ちや行動を調整する

上手くできたことを実感する

自分の力を発揮したい

上手くできた実感を得る

あきらめない、くじけない

